

**マルチプロジェクション時の設置ワークフローを自動化により改善
PCアプリケーションソフトウェア“Multi-projection Support Software”を提供**

キヤノンは、レンズ交換式の「パワープロジェクター」シリーズ^{※1}向けに、マルチプロジェクション時の「画素位置調整」と「色調整」を自動化し、設置ワークフローを改善するPCアプリケーションソフトウェア“Multi-projection Support Software”を10月中旬より無償提供します。



プロジェクションマッピング例
(株式会社ネイキッド「MUSEUM OF FRAGRANCE」)



マルチプロジェクション時の機材イメージ
(「WUX7000Z」4台使用時)

近年、ビジネスプロジェクターは、従来のプレゼンテーションなどの用途に加え、スポーツイベントにおけるパブリックビューイングをはじめ、美術館での映像作品や、プロジェクションマッピング技術を用いた映像演出など、幅広い用途に活用が広がっています。このような用途では、複数のプロジェクターを組み合わせることで広範囲な投写や輝度を高める「マルチプロジェクション（マルチ投写）」という手法が、利用されています。

一方、マルチプロジェクションは、それぞれのプロジェクターが投写する映像の画素位置や色を正確に合わせる必要があるため、熟練作業者であっても、設置・調整作業に、時間と手間を要するという課題を抱えています。キヤノンは、この課題を解決するため、マルチプロジェクション時の「画素位置調整」と「色調整」を自動化することで、設置時のワークフローを改善するPCアプリケーションソフトウェア“Multi-projection Support Software”を開発しました。

キヤノンは、本ソフトウェアを無償提供することにより、共通プラットフォーム設計を採用する「WUX7000Z」などの「パワープロジェクター」シリーズの魅力を高めるとともに、マルチプロジェクションの利用シーンを広げ、映像表現の新たな可能性の追求に貢献していきます。

■ 設置ワークフローを改善する「自動位置調整機能」と「自動色調整機能」

“Multi-projection Support Software”は、マルチプロジェクション時の「画素位置合わせ」、「色合わせ」の調整を自動化するPCアプリケーションソフトウェアです。

最大4台のプロジェクターがスクリーンに投写する映像を、市販のレンズ交換式カメラ「EOS Kiss」と交換レンズ^{※2}を用いて撮影することで、位置ずれを自動調整する「自動位置調整機能^{※3}」や、色や明るさを自動調整する「自動色調整機能」を利用することができます^{※4}。

従来、高度な熟練作業者が時間をかけて手動で行っていた作業を、自動化することにより、ワークフローにかかる時間や手間を改善します。

※1 対応機種は、「WUX7000Z」、「WUX 6600Z」、「WUX5800Z」、「WUX 7500」、「WUX 6700」、「WUX5800」（6機種ともに2018年7月発売）、「4K6021Z」（2019年11月上旬発売予定）、「4K6020Z」（2018年12月発売）、「4K5020Z」（2018年12月発売）の9機種。2019年9月5日時点。なお、一部機種は、ファームウェアを更新する必要があります。詳細はホームページでご確認ください。
 ※2 「EOS Kiss X10」（2019年4月発売）と交換レンズ「EF-S18-55mm F4-5.6 IS STM」（2017年4月発売）、「EF-S55-250mm F4-5.6 IS STM」（2013年9月発売）、「EOS Kiss M」（2018年3月発売）と交換レンズ「EF-M15-45mm F3.5-6.3 IS STM」（2015年10月発売）、「EF-M55-200mm F4.5-6.3 IS STM」（2014年7月発売）に対応。
 ※3 「ブレンド投写」の「自動位置調整」は、「4K5020Z」、「4K6020Z」、「4K6021Z」に対応していません。
 ※4 必要なシステム構成は次ページの図「“Multi-projection Support Software”のシステム構築例」参照。

● 一般の方のお問い合わせ先 : キヤノンお客様相談センター 050-555-90071
 ● プロジェクターホームページ : canon.jp/projector

<主な特長>

・自動位置調整機能

複数台のプロジェクターで投写した映像の位置ずれを、市販のレンズ交換式カメラ「EOS Kiss X10」もしくは「EOS Kiss M」を用いた画像処理により自動で調整することができます。輝度を高めるために映像を同じ位置に重ね合わせて投写する「スタック投写」と、解像度を高めるために映像を組み合わせる「ブレンド投写*」に適した調整モードを備えており、さまざまな設置パターンに対応した画素位置の調整ができます。

・自動色調整機能

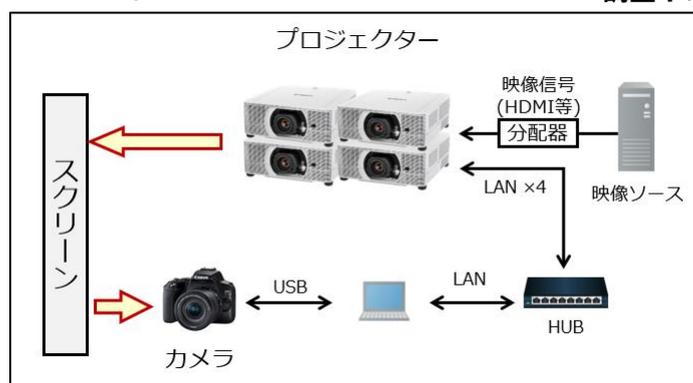
複数台のプロジェクターで投写した映像の色合いや明るさを、照度計などの専用工具を使わずに、市販のレンズ交換式カメラ「EOS Kiss X10」もしくは「EOS Kiss M」で取得した情報により自動で調整することができます。赤 (R)、緑 (G)、青 (B)、白 (W) の各色を調整できるだけでなく、各色の中間の階調部分も調整できるため、マルチプロジェクション時に高精度で均一性の高い投写を実現することができます。

・プロジェクター制御機能

位置合わせや色合わせに関するプロジェクター本体メニューの代表的な機能（電源、光学調整、キーストーン、エッジブレンド、色調整など）を PC で操作することができます。



“Multi-projection Support Software” による調整イメージ



“Multi-projection Support Software” のシステム構築例

- ※ 「ブレンド投写」の「自動位置調整」は、「4K5020Z」、「4K6020Z」、「4K6021Z」に対応していません。
- * 対応 OS は、「Windows 10 Enterprise/Pro/Home (バージョン 1903 確認済み)」。ディスプレイ解像度：SXGA+ (1400×1050) 以上。Net Framework：4.8、メモリ：4GB 以上。ハードディスク空き容量：インストール時：300MB 以上。アプリケーション動作時：1GB 以上。その他：Ethernet 接続用 LAN 端子、USB2.0/3.0 端子。三脚 (推奨) カメラ固定用。USB ケーブル。その他、必要に応じて、スクリーン、スイッチングハブなどを用意してください。

<仕様>

本ソフトウェアの詳細は、ホームページをご覧ください。